

平成 29 年 8 月 2 日
総合政策局国際政策課(グローバル戦略)
土地・建設産業局国際課
港湾局産業港湾課

末松国土交通副大臣のマダガスカル共和国及びモーリシャス共和国出張の結果概要

～「日・マダガスカル官民インフラ会議」の開催等～

末松国土交通副大臣は、TICAD VI の成果を踏まえ、7月22日から27日まで、マダガスカル共和国及びモーリシャス共和国を訪問しました。

マダガスカル共和国 (会議等の概要は別紙1を参照)

末松国土交通副大臣は、TICAD VI (第6回アフリカ開発会議) の成果を踏まえ、我が国が提唱する「質の高いインフラ投資」への理解を促進するとともに、我が国インフラ関連企業の現地進出を支援することを目的に、アフリカ・インフラ協議会企業31社約70名、官民合計約80名を同行して、マダガスカル共和国を訪問し、同国政府と共催で官民インフラ会議を開催しました。

末松国土交通副大臣は、「日・マダガスカル官民インフラ会議」(7月24日)の主催者としてのオープニング・スピーチ(冒頭挨拶)をはじめ、ラジャオナリマンピアニナ大統領をはじめとする先方政府大臣との会談を通じ、マダガスカルにおける「質の高いインフラ投資」推進に向けて貢献していくことを表明するとともに、先方政府のインフラ整備を担当する4大臣との間で、「質の高いインフラ投資」推進協力に係る覚書に署名し、関係者により「質の高いインフラ対話」を立ち上げ、定期的な対話を継続することで合意しました。また、円借款「トアマシナ港拡張事業」のトップセールスを行いました。

モーリシャス共和国 (会議等の概要は別紙2を参照)

モーリシャスにおいては、ボダ公共インフラ・陸運大臣との会談(7月26日)を通じ、両国共同でモーリシャス及び他のアフリカ各国の「質の高いインフラ」整備を促進するため、インフラ分野における協力関係の継続に係る覚書に署名し、両国の協力関係をさらに深めていくことで合意しました。

(注) TICADとは、Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。2016年8月27～28日には、ケニア・ナイロビにて第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が開催されました。同会議には、安倍晋三内閣総理大臣が出席し、ケニヤッタ・ケニア大統領(開催国)、デビー・イトゥノ・チャド共和国大統領(AU議長)と共に共同議長を務めました。また、TICAD VIIに際して、ラジャオナリマンピアニナ大統領と安倍総理大臣は首脳会談を実施し、インフラ投資における協力等に関し、意見交換を行いました。

<問い合わせ先>

総合政策局 国際政策課(グローバル戦略) 大澤、入江(内線:25205、25216)
(TEL) 03-5253-8111、(直通)03-5253-8314、(FAX) 03-5253-1562

【トアマシナ港関係】

港湾局産業港湾課 種村、野上(内線:46462、46468)

(TEL)03-5253-8111、(直通)03-5253-8679、(FAX)03-5253-1651

1. 日・マダガスカル官民インフラ会議(7月24日)

- (1) 日 時 : 平成29年7月24日(月)
- (2) 場 所 : マダガスカル共和国 アンタナナリボ市内(CCI IVATO)
- (3) 主 催 : (日本側)国土交通省
(マダガスカル側)ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府
- (4) 参加者: 両国官民合計で約350名
(日本側の主な出席者) 国土交通省(末松国土交通副大臣、青木建設流通政策審議官)、在マダガスカル大使館(小笠原大使)、日本企業(アフリカ・インフラ協議会の建設、コンサル、商社、メーカー等 31社) 他
(マダガスカル側の主な出席者) ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府付大臣、ラマンツア運輸・気象大臣、ラザフィマンディンビ公共事業大臣、ラスルエリソン水利・エネルギー・炭化水素大臣 他
- (5) 概要:

① オープニング・スピーチ(冒頭挨拶)

会議冒頭、末松国土交通副大臣、宮本アフリカ・インフラ協議会(JAIDA)会長、小笠原大使、ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府付大臣より、挨拶を行いました。

<末松国土交通副大臣の挨拶概要>

「今回、TICAD VIの成果を踏まえ、官民インフラ会議を開催できたことは大変嬉しい。マダガスカルにおいて、同国最大の港湾であるトアマシナ港は、今後も取扱貨物量の増加が見込まれているところであり、施設の拡張整備は急務。また、港湾以外にも、道路、上下水道など、同国では様々なインフラ需要がある。インフラ需要への対応にあたり大切な視点が「インフラの質」。本日の会議は、日本企業31社が出席しており、環境に配慮した浚渫技術、厳しい波浪環境下での防波堤建設実績、高い強度を確保出来る鋼管矢板を使用したバース建設実績、迅速かつ効果的な舗装技術、困難な土壌や地理的条件におけるトンネルや橋梁建設技術など、我が国が世界に誇る技術や取組を共有し、今後のマダガスカルのインフラ整備に貢献出来ることを祈念。」

末松国土交通副大臣のオープニング・スピーチ(冒頭挨拶)



オープニング・スピーチ(冒頭挨拶)の後、基調講演、覚書署名式、ワークショップ及びビジネスマッチングを実施しました。

② 基調講演

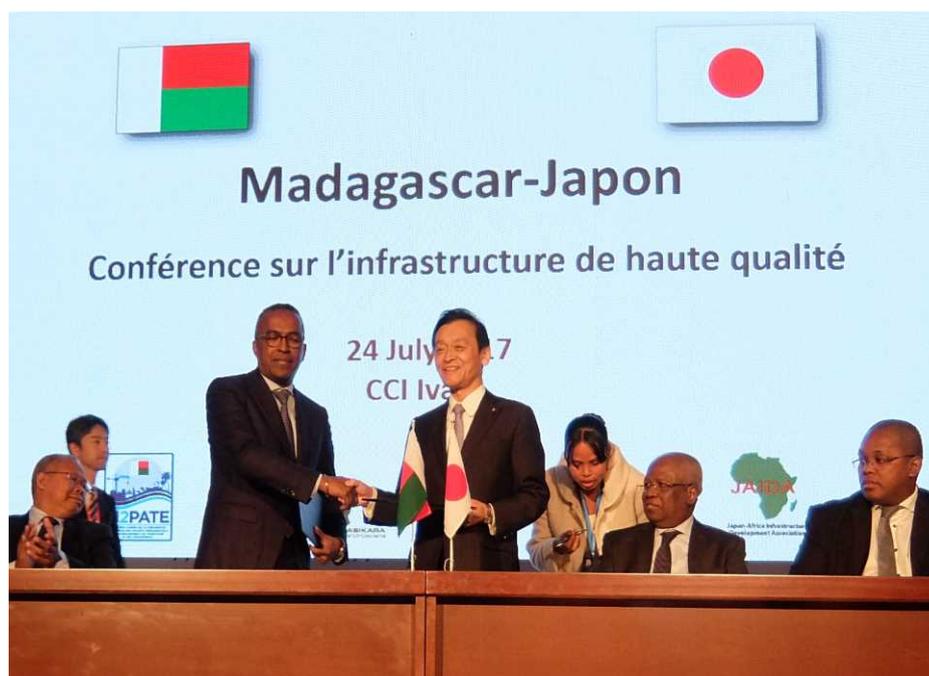
基調講演においては、国土交通省の青木建設流通政策審議官より「日本の質の高いインフラ」、海外建設協会の山口専務理事より「我が国建設業の海外活動」、マダガスカル各省(大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府、公共事業省、運輸・気象省、水利・エネルギー・炭化水素省)より「マダガスカルにおけるインフラ開発」についてのプレゼンテーションを実施しました。

③ 覚書署名式(「質の高いインフラ投資」推進協力の継続に係る覚書に署名)

末松国土交通副大臣は、ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府付大臣、ラマンツア運輸・気象大臣、ラザフィマンディンビ公共事業大臣、ラスルエリソン水利・エネルギー・炭化水素大臣との間で「質の高いインフラ投資」推進及び協力関係の継続に係る覚書に署名しました。

覚書においては、「質の高いインフラ投資」の推進に向けて、「日・マダガスカル官民インフラ会議」の後も対話を継続するため、定期的に意見交換する枠組み「質の高いインフラ対話」(“Quality Infrastructure Dialogue”)を立ち上げ、対話を継続することで合意しました。

署名式(末松国土交通副大臣とマダガスカル政府4大臣)



④ ワークショップ

「建設技術」「港湾」の2テーマに分かれてワークショップを開催しました。日本企業やマダガスカル企業等からのプレゼンテーションの後、活発な質疑応答、意見交換が実施されました。

ワークショップの様子



⑤ ビジネス・マッチング

日本企業が個別のブースに分かれ、関心を有するマダガスカル企業等と面談を実施しました。活発な情報交換を行い、日本企業とパートナーとなり得るマダガスカル企業等との間で関係構築を行いました。

ビジネスマッチングの様子



2. マダガスカル共和国政府要人とのバイ会談(7月24日、25日)

末松国土交通副大臣は、ラジャオナリマンピアニナ大統領及びインフラ担当4大臣(ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府付大臣、ラマナンツア運輸・気象大臣、ラザフィマンディンビ公共事業大臣、ラスルエリソン水利・エネルギー・炭化水素大臣)と会談を行い、TICAD VIの成果等を踏まえ、「質の高いインフラ」投資推進に向けた協力関係を強化することで一致しました。また、円借款「トアマシナ港拡張事業」における日本企業受注に向けてトップセールスを実施したほか、アンタナナリボ市の交通渋滞対策や道路整備など各種インフラプロジェクトについて意見交換を行いました。さらに、同行した我が国インフラ関係企業等(アフリカ・インフラ協議会)を紹介しました。

ラジャオナリマンピアニナ大統領からは、日本の訪問団を歓迎するとともに、日本企業が施工した国道7号線バイパスや円借款「トアマシナ港拡張事業」についての説明があり、日本の支援に対する感謝と協力への期待を表明されました。

ラフィディマナナ大統領プロジェクト・国土整備・設備担当大統領府付大臣、ラマナンツア運輸・気象大臣、ラザフィマンディンビ公共事業大臣、ラスルエリソン水利・エネルギー・炭化水素大臣からは、会議の成功を喜ぶとともに、マダガスカルの現状とポテンシャルについて説明があり、同国としては、インフラの改善と財政的信頼の向上を進め、アジアとアフリカをつなぐ国としての立ち位置を確立したい旨の発言がありました。また、署名した覚書に基づき、会議のフォローアップとして来年1月に「質の高いインフラ対話」を行うことを確認しました。

ラジャオナリマンピアニナ大統領表敬



3. その他(7月23日、25日)

末松国土交通副大臣は、トアマシナ港湾公社エディ総裁との面会及び視察をはじめ、アンバトビーニッケル精錬工場、国道7号線バイパス等のマダガスカルに対する我が国の重点支援プロジェクトの現場を視察しました。

トアマシナ港湾公社エディ総裁との面会



トアマシナ港視察



アンバトビーニッケル精錬工場視察



国道7号線バイパス視察

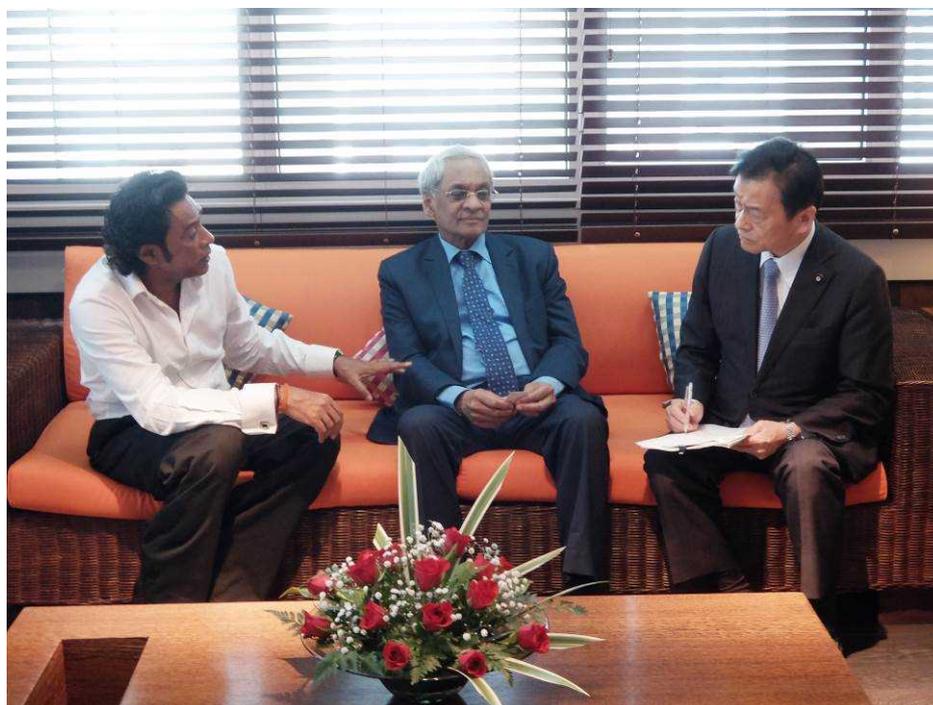


1. モーリシャス共和国政府要人とのバイ会談(7月26日)

末松国土交通副大臣は、ボダ公共インフラ・陸運大臣、ラチュミンアライドウ外務・地域統合・国際貿易大臣、クンジュ海洋経済・海洋資源・漁業・海運大臣と会談を行い、TICAD VIの成果を踏まえ、「質の高いインフラ」投資推進に向けた協力関係を強化することで一致しました。また、橋梁FS(実行可能性調査)の実施など各種インフラプロジェクトについて意見交換を行いました。さらに、同行した我が国インフラ関係企業等(アフリカ・インフラ協議会)を紹介しました。

ボダ公共インフラ・陸運大臣からは、会談の成功を喜ぶとともに、LRT(ライトレールトランジット)建設プロジェクトにおけるターミナル周辺開発への投資誘致等について説明がありました。また、署名した覚書に基づき、両国共同でモーリシャス及び他のアフリカ各国のインフラ整備を促進するために、両国の協力関係をさらに深めていくことを確認しました。

ボダ公共インフラ・陸運大臣とのバイ会談
(中央は同席のラチュミンアライドウ外務・地域統合・国際貿易大臣)



2. モーリシャス投資評議会(BOI)でのビジネスマッチングセミナー(7月26日)

BOI主催により、インフラ整備事業に関心を有するモーリシャス企業等と日本企業とのビジネスマッチングセミナーを実施しました。活発な情報交換を行い、日本企業とパートナーとなり得るモーリシャス企業等との間で関係構築を行いました。

ビジネスマッチングの様子



3. その他(7月26日)

末松国土交通副大臣は、気象レーダー(清水建設)など、我が国の質の高いインフラのモーリシャス展開事例を視察しました。

気象レーダー視察

